柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
http://www.kakio-kyodo.com
第 53 号

生麦事件の真相を探る（1）

―なぜイギリス人は殺害されたのか―

今年は生麦事件発生150年となります。この事件は、柿生からも近い横浜市鶴見区生麦で発生しました。江戸幕府の土台を揺るがし日本の近代化のきっかけにもなった重大な事件でした。残念ながら最近の中学校の教科書には「生麦事件(ﾅﾏﾑｷﾞｼﾞｹﾝ)」という文言も出てこないのが多いようです。以前の教科書には『1862 年薩摩藩の行列に乗馬のまま横切ろうとしたイギリス人が殺害された』というくらいの文章で書かれていました。しかしこの記述には少し誤りがあります。果たしてその真相はどうだったのか調べてみますと意外な真相がわかってきました。

昭和12年の「国史教育」に94歳の久木村治休という人物が『生麦事件で夷人(外国人)を殺した私』(口述筆記)という題でその体験談を述べていますので紹介します。

文久2年(1862年)薩摩藩主島津久光は、朝廷の特使大原重徳(ｵｵﾊﾗｼｹﾞﾄﾐ)の護衛として京都から江戸へ赴きました。8月21日(新暦の9月24日)特使より先に帰途につき、三田(東京都港区)の薩摩屋敷を総勢約300名(別の資料では400名)の藩士を引き連れ早朝出発しました。先頭は足軽、次は挟箱(ﾊｻﾐﾊﾞｺ=衣類や甲冑などを入れる箱)組、鉄砲組などで主君の駕籠はそのずっと後方で回りを多数の御駕籠脇護衛の藩士に守られていました。

ちょうど午後2時頃、東海道の生麦(横浜市鶴見区生麦四丁目25番地付近)を通過中、4名の馬に乗った異人(イギリス人の男性3名、女性1名)が横浜方面からやってきました。一行は少しためらいながら行列から見て右側にいましたが、左側に位置をずらしおとなしく乗馬したまま通って行きました。やがて藩主の駕籠が近付いてくると警護の藩士の数も多くなり、2列縦隊であった行列は、道路いっぱいにふくれあがっていました。4人の異人は道路左側に押しやられ、藩士たちは異人に引き返せと合図をしました。異人は馬を逆方向に廻し引き返そうとしましたが、その時はもう駕籠がすぐ近くまで来ていました。この様子を見ていた藩士の奈良原喜左衛門は駕籠脇から飛んできて、群がる藩士たちを押し分けて『異人無礼』と一声叫んで馬上の異人(イギリス人商人リチャードソン)めがけて一太刀を浴びせましたが失敗。さらに『仕損じたか』と叫びつつ第二の太刀で左わき腹を斜め下に切りつけました。驚いた異人は悲鳴を上げて脇腹を押えながら馬に乗って元の道をあわてて引き返しますが、前方で待ち構えていた久木村治休にさらに脇腹を切りつけられ、逃げる途中臓腑のようなものを落としながら、それでも馬を走らせました。やがて現在の生麦一丁目(ｷﾘﾝﾋﾞﾊﾞﾚｯｼﾞ前=国道15号沿い)の大樹の傍らで落馬し道端の草をかきむしって血を拭き、しきりに『ミズ、ミズ』と叫んでいましたが、村人は怖くて近寄れませんでした。その後追いついた藩士の海江田武次が苦しむリチャードソンの様子を見て哀れに思い喉にとどめを刺しました。死骸は引っ張って畑の脇の溝の中に引きずり込んで、付近の民家からムシロを持ってきてかぶせておいたそうです。

以上が生麦事件の発生当初の様子です。内容的にはこの様子を見ていた大工徳太郎の女房よしの証言（定御用廻りの届書）や当時生麦村名主の「関口日記」にも残されていますが、若干の相違はあるものの概要はほぼ上記の様子であったようです。

次号では事件の原因などもう少し深く掘り下げて考えてみます。

参考資料：「国史教育第2巻2号」（文：板倉）

リチャードソン落命の場所（樹木の下）

再開しました　シリーズ　「麻生の歴史を探る」 第23話

からむしの里

～麻生の“麻”は苧麻（からむし）か～

小島　一也

今でも麻や苧麻（紵とも書く）を栽培し繊維を取り、昔ながらの手織りの布づくりの里があるという･･･。私がそれを知ったのは昭和62年に香林寺の五重塔が建ち、四天王像のお召物が「天平乾漆造り」という貴重な古代織物と報道されたときで、製作者の酒井美智代さんは奥会津で苧麻織りの伝統技術を受け継ぐ芸術家で、手織り通信「からむしの里」を頂いたことがあったからでした。

浅草から東武会津鬼怒川線で会津へ、湯西川温泉を過ぎ、会津高原駅は茫洋とした原野が続き、さすがに遠いところでした。会津田島駅で下車して観光案内所で聞くと、昭和村はここから国道400号線で約25Km だと。ただ、観光バスは走るが、定期バスは1日6便だけですと。覚悟はしていたとはいえ、峠を越えて紹介された民宿に着いたのは夕刻になってしまいました。

民宿の相宿は2組だけ、お蔭でご主人夫妻を独占できたのが幸いで、いろいろな話を聞くことができました。酒井美智代さんは元農協組合長の娘さんで、自分で苧麻や麻を栽培、手織りして、その作品は独創的で、各地で個展を開く、福島県下では有名な芸術家だそうです。

この昭和村は、冬には2m余りの雪が積もり、通行止めになってしまうそうで、暮らしは田畑を耕しての自給自足の生活でしたが、近年は観光事業に力を入れています。苧麻や麻の畑は山と山の間にあり、苧麻畑は通常2～3㌃（2～3反歩）が1区画で、5月頃に雑草を燃やして肥料にし、5～6センチ程の苧麻の宿根を植えて5年ほどで更新するそうです。麻の栽培は近年大麻（麻薬）の関係から免許制となり、耕作者は減ってしまったとのことです。

村の唯一の換金作物は苧麻で、その殆どが原麻のまま束ねられて越後に売られて小千谷、越後布になりますが、その越後の繊維産業も今は斜陽産業となっており、村の苧麻栽培も絶えるほどになってきているようです。

しかし暮らしの中で人の手から手へ、村の苧麻織りの伝統は苧麻の絶えるのを許しませんでした。昭和58年に酒井さんの作品には通産大臣賞が授与され、平成13年には「からむし織の里」が村にオープンしました。

からむし織の里

翌日、宿のご主人が「からむし工芸博物館、織姫交流館」に送って下さいました。聞くと、村の「ふるさと創生事業」とのこと、広い駐車場に観光バスが2台。工芸館は村の施設とは思えないほど豪華な内容で、縄文時代の織物から現代の工芸品まで展示されています。交流館は織物技術を習得したい女性が、苧麻栽培から共同生活をする織姫養成のものだそうです。

博物館に隣接して、「世界の苧麻栽培園」がありました。中国、西欧、アメリカ、日本それぞれの国の苧麻が植えられており、日本の特産だと思っていた苧麻が原産は中国だと示されていて驚きました。私たち麻生の苧麻織りの始まりは天武天皇（在位673～686年）の頃、今からおよそ1330年ほど前のこと、私はその時代の織物を、遠い会津の「からむしの里」で見てきました。

シリーズ
私の少年時代（1）

私の少年時代の遊び　そのとき山が動いた

海老沢芳夫　（岡上）

私が国民学校初等科1年に入学した時、岡上分教場は2校舎あり4年生まで複式学級をしていました。この年昭和16年12月８日は真珠湾攻撃の開戦により、日本と連合諸国（アメリカ、イギリス）との戦いで太平洋戦争が始まりました。

このころの遊びは学校でも友達とよく鬼ごっこやかくれんぼをして遊びました。

小学校2、3年になった昭和17、18年には、太平洋戦争の戦線に参戦のため、召集令状を手に各方面の部隊に岡上からも多くの方が入隊して、南方を目指して出征していきました。当初は日本軍が快進撃を続けた戦いも、翌年のミッドウェー海戦の敗北から次第に劣勢となっていきました。

学校では休み時間に鬼ごっこをしたり、体育の時間にはドッジボールをしたりしました。正月になるとコマを回したり、凧あげをしたり、女の子は羽根つきをしたりして遊んだことを思い出します。凧あげは広い場所がなく、田んぼの中でよく上げました。

コマ回しは蚕影山祠堂前の広場で3～4人でよくやりました。蚕影山とは蚕の神様で、文久3年（1863 年）に東光院境内に蚕影山祠堂が建てられ、江戸時代後期から明治、大正、昭和の10年代まで、岡上の養蚕は盛んでした。蚕影山信仰は講を生み、毎年3月23日には「蚕影山祠堂祭」が蚕影山講中によって行われ、蚕念仏は長く続けられていたと聞きます。

当時、生糸は輸出を含めて需要が多く、農家の収入源として大きな位置を占めていました。明治5年の統計によると、岡上が57kgで一番の生産量を記録しています。

小学校4年生になった頃から防空頭巾を被っての通学、5年生になると柿生の本校に通うのですが、戦争のため岡上のクラブ（集会場）の2階でしばらく学びました。

昭和20年には戦況も一段と厳しくなり、防空壕に入ることも多く、翌年から B29による本土空襲が始まり、3月10日には東京下町の夜間爆撃、東京の空は真っ赤になり空襲の恐ろしさを知りました。アメリカは沖縄を占領し、ついに広島・長崎に原子爆弾を落として、多くの尊い命が奪われました。当時の首相は連合国軍が提示する無条件降伏のポツダム宣言を受諾し終戦を迎えました。8月15日の玉音放送は聞き取れませんでしたが、戦争は終わったのだなと感じました。もっと早く戦争を終結してほしいと思いました。

高学年になると、夏は学校から帰ると鶴見川に行ってよく泳ぎました。また魚釣りもよく友達と行きました。このころの鶴見川はきれいな水が流れていて、ウグイやヤマベ、砂もぐりのドジッポや、雨上がりの日など水が濁るとナマズやウナギも釣れました。またかがんで銛を持ち魚突きもよくやりました。

近くの「高札場」には子供たちがよく集まり、コマ回しをしたりキャッチボールをしたりして遊びました。また東光院境内の広場では先輩たちと野球をよくやりました。

高札場は、現在の岡上駐在所の位置（交通が多い辻）に、江戸幕府や領主からの御法度、掟書など禁令を書き記した板札を立てるところでした。

「生類憐みの令」（5代将軍徳川綱吉政権の禁令）、「捨馬禁止」と「徒党・強訴・逃散禁止」の高札が現在も柿生郷土史料館に展示されています。

私の小学校時代は太平洋戦争が続いていましたので、途中戦況を交えて、少年時代の遊びについて書きました。またこの「戦争の記憶を風化させないで、語り継いで後世に伝えたい」と願い記録しました。

蚕影山祠堂覆堂（現在は日本民家園に移設）

高札場（現在は日本民家園に移設）

郷土の歳時記

10 月 神無月＝読みかんなづき＝意味一般的には日本全国の神様が10月に出雲国に集まり留守になるので「かみなしづき」で出雲国だけ「神在月(かみありづき)」と言われています。本来は神嘗月(カンナメツキ)から来たものと思われます。伊勢神宮で毎年10月中旬に行われる一年の収穫を神様に感謝する神嘗祭(カンナメサイ)からきたもので、「神嘗をする月」すなわち1年間の収穫に感謝する月という意味のようです。

◎秋祭り(9月～10月)

・9月から10月にかけて柿生・岡上村ではあちこちの鎮守様で村中あげて秋祭が行われ、笛や太鼓の音が響いてきます。

この秋祭は春から秋にかけて、水・虫・風・日照りなどの心配をしながら育ててきた稲や田畑の豊作を願ったり祝ったりするとともに、多忙な農家の少ない休みの日でもあります。

これも神嘗祭と同じで1年間の収穫を神様に感謝するお祭りです。

∈∈∈∈柿生郷土史料館開館日のご案内∋∋∋∋∋∋∋

◎開館日：偶数月は土曜日、奇数月は日曜日

10月6，20，27日（毎土曜日）　10月13日は柿生中バザーのため休館とします。

11月4，11，18，25日（毎日曜日）

◎開館時間：午前10時～午後3時

∈∈∈∈柿生郷土史料館開館日8～11月の催物∋∋∋∋

第6回特別企画展

◎テーマ『写真でたどる郷土百年の歩み展Ⅱ
～昭和20年より今日まで』

◎期　間：8月18日～11月25日

◎特別展示　写し出された132年前の下麻生の姿も展示しています。

学ぼう郷土の歴史・守ろう郷土の文化

柿生郷土史料館へのご支援に御礼申し上げます
郷土への支援に感謝いたします

川崎信用金庫柿生支店　様
セレサ川崎農業協同組合柿生支店　様
株式会社すずゆう商事　様